

平成21年5月25日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18320113
研究課題名（和文） パーソナルメディアとしての軍事郵便と従軍日記研究

研究課題名（英文） Study on Letters and Diaries as Personal Media written
by Soldiers during the Wars in Modern Japan

研究代表者

新井 勝紘（ARAI KATSUHIRO）
専修大学・文学部・教授
研究者番号：40222707

研究分野：日本近代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、宗教学、社会学、メディア、軍事郵便

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、軍事郵便と従軍日記をパーソナルメディアとしてとらえ、以下の点を明らかにすることを目的としている。

(1) 軍事郵便の制度史

軍事郵便制度の根拠となる法律、規定など、その成立の経緯や概要を把握する。

(2) 軍事郵便、従軍日記の所在調査

公刊されているものや個人蔵のもの、資料館・研究機関が収蔵しているものなどがどれほど存在するのかを調査し、その規模と広がり を明らかにする。

(3) 兵士の意識の分析

所在確認をした軍事郵便や従軍日記を解読することで、兵士の戦争観や対外観などの分析を進める。

(4) パーソナルメディアと地域社会

資料の所在が明らかとなっている地域において実地調査や聞き取り調査を行うことにより、その地域において軍事郵便や従軍日記研究がメディアとしてどのような機能を果たしていたのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

研究の目的達成のため、現地調査や資料の収集、研究成果の公開、研究団体との連携を

図った。以下に、具体的な内容を述べる。

(1) 現地調査の実施

これまでに訪れた主な調査先を、資料の所蔵調査と聞き取り調査に分けて挙げておく。

① 資料の所蔵調査

郵政資料館（通信総合博物館）、国立歴史民俗博物館、切手の博物館、三重県立図書館、すみだ郷土文化資料館、沼津市明治史料館、奈良県立図書情報館、立命館大学国際平和ミュージアム、兵士・庶民の戦争資料館、知覧特攻平和会館など。

② 聞き取り調査先

三重県津市、山口県下関市、鹿児島県始良郡、鹿児島県瀬戸内町（加計呂麻島）など。

(2) 資料の収集

軍事郵便や従軍日記の収集だけでなく、兵士の意識を多面的に探るため、兵士が凱旋や除隊の際にお土産として郷土に配布する「兵隊盃」も収集した。

(3) 研究成果の公開

研究成果としての論考を、『歴史評論』、『専修史学』、『郵便史研究』などの学術雑誌に発表した。

(4) 研究団体との連携

郵便研究の拠点といえる郵政資料館と、2008年度より研究の協力を図っている。具体的には、定期的な研究会の開催、郵政資料館の所蔵資料の調査、所蔵資料を活用した成果の公表である。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している

すでに述べてきたことから分かるように、現地調査や資料の収集を積極的に行うことで、毎年度研究成果を発表することができている。

遅れている点がないわけではない。研究の成果がやや軍事郵便に集中したため、従軍日記に関する調査がそれほど進んでいない。資料の収集という面では、軍事郵便と同様に従軍日記についても積極的に取り組んだのだが、研究成果の公表というところまでは至っていない。

ただ、全体としては最初に述べたように「おおむね順調に進展している」といってよい状況である。

4. 今後の研究の推進方策

今後の課題と、それに対する取り組みについて述べる。

(1) 野戦郵便局の研究

郵政資料館には、野戦郵便局に関する膨大な量の資料が所蔵されている。その資料を把握し、研究成果へとつなげていく。

(2) 従軍日記の研究

日記研究については、「女性の日記から学ぶ会」という団体が収集・調査を進めている。この団体との協力関係の構築を目指し、従軍日記研究の深化を図る。

(3) 軍事郵便関連資料の調査

軍事郵便の資料といっても、手紙や葉書だけではなく、封筒や便箋、さらには軍事郵便に関連するポスターやチラシ、小説など多様な形態で存在する。そうした資料の調査を進めていく。

(4) 兵士の意識の多面的な分析

軍事郵便や従軍日記だけでなく、盃や忠魂碑、墓地などにも注目し、兵士さらには地域という視点から戦争を考えていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 新井勝紘、軍事郵便への複線的アプローチ―出す・見る・展示する・考える―、郵便史研究、25号、1～12頁、2008年、査読有
- ② 後藤康行、メディアに描かれた軍事郵便―イメージにみる戦地と銃後―、専修史

- 学、45号、1～30頁、2008年、査読有
- ③ 新井勝紘、パーソナル・メディアとしての軍事郵便―兵士と銃後の戦争体験共有化―、歴史評論、682号、12～26頁、2007年、査読有

[学会発表] (計2件)

- ① 後藤康行、日本の軍事郵便の展開―パーソナル・メディアからマス・メディアまで―、メディア史研究会、2009年2月28日、日本大学三崎町キャンパス
- ② 新井勝紘、軍事郵便を見る・読む・考える―軍事郵便の保存と歴史的価値、郵便史研究会、2007年10月7日、通信総合博物館

[その他]

新聞掲載

南日本新聞 (2009年5月9日)

鹿児島県始良郡にて2009年3月24日に実施した聞き取り調査の様子が掲載された。